



茨城県地域臨床 教育センターだより

2025
Vol.51

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121 令和7年6月1日発行(第51号)

就任のごあいさつ



講師

寺田 真

専門領域 ■ 神経内科
■ 老年科

このたび、筑波大学附属病院茨城県地域臨床教育センターに赴任いたしました、寺田真と申します。2008年に筑波大学医学専門学群を卒業後、東京都老人医療センター、東京都健康長寿医療センター、筑波大学附属病院にて内科、神経内科、老年科の臨床研修を修了いたしました。筑波大学大学院在学中には東京都医学総合研究所へ国内留学し、パーキンソン病の主要な原因蛋白である α -シヌクレインの基礎研究に従事いたしました。学位取得後から昨年3月までの7年間は、県西総合病院、茨城県西部メディカルセンターにて茨城県西部地域臨床教育センター講師として勤務し、県西地区における地域医療に携わりつつ、神経内科診療および臨床教育体制の構築に尽力いたしました。

神経内科疾患は、脳や脊髄、末梢神経、筋肉と全身に多岐にわたり、頭痛やしびれといったcommon diseasesから、脳卒中、髄膜炎、ギラン・バレー症候群などの救急疾患、さらにはパーキンソン病や筋ジストロフィーといった神経難病まで、その範囲は広く、患者さんの訴えも実に多彩です。近年、臨床検査や画像検査は急速に進歩していますが、神経内科においては依然として問診や身体診察が診断において最も重要であり、日常診療においても患者さんとの直接的な関わりを重視しています。高齢者医療のメッカでの初期臨床研修経験から、目の前の患者さんの病気を治すことはもちろん、その方のこれまでの人生を尊重し、寄り添う姿勢を常に大切にしております。

当院は難病診療連携拠点病院に指定されており、個々の患者さんの診療はもとより、県全体の難病医療を牽引する役割が期待されています。神経難病は専門医による診断と継続的なフォローアップが不可欠であり、様々な福祉サー

ビスの導入、病状の進行に応じた胃瘻造設や人工呼吸器の導入、アドバンスケアプランニング、終末期ケアなど、専門医が深く関わるべき局面が多く存在します。長期にわたる療養となることも少なくなく、患者さんを中心とした多職種からなるチーム医療が不可欠です。神経内科医はその難病チーム医療においてリーダーシップを発揮することが求められます。神経難病を中心に、県内の難病医療に関わるスタッフとの連携を深化させ、課題を抽出し、難病を抱えながらも安心して生活できる体制の構築を目指してまいります。また、当院にはがんセンターが併設されており、がん治療に関連した神経障害への対応にも貢献できればと考えております。

教育面では日本内科学会内科専門研修プログラムにおける神経内科領域の研修機会を提供し、サブスペシャリティとして神経内科や老年科を志す方のキャリア形成に貢献したいと考えております。さらに、院内講習会や公開講座を通じて、医療スタッフや地域の皆様への研修機会の充実を図ってまいります。当院には、パーキンソン病関連疾患やアルツハイマー型認知症の診断に有用な核医学検査を実施可能な設備が整っております。診療体制を整備した後は、筑波大学神経内科と連携し、正確な臨床診断と画像診断に基づいたバイオマーカー測定などの臨床研究に着手したいと考えております。

最後に、かねてより医師不足が深刻な本県において、神経内科医が常勤する医療機関は限られます。今回、常勤体制が再開となりますが、常勤一人体制で提供できる医療には限界がある上、近年問題となっている燃え尽き症候群のリスクも高まり、決して望ましい状況とは言えません。当面の目標として、入院診療体制の再構築、当科へのニーズの把握、そして早期の複数常勤医体制の実現を掲げております。センター教員としての立場を生かし、筑波大学神経内科を中心に、周辺の医療機関との連携を深めていきたいと考えております。前任地とは病院の規模や診療科数が大きく異なる環境ではございますが、県西地域での診療経験を生かし、県央地域を中心とした神経内科診療、難病医療の向上に貢献できれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

スキルトレーニング室のご紹介



准教授

齋藤 誠

専門領域 ■小児科
■新生児
■周産期遺伝

最近初期研修医のドラマなどが放映されていてご存じの方も多いかと思いますが、医師が独立して診療業務に従事するためには医師国家試験合格後、2年間の臨床研修（初期研修）が必須となっています。

茨城県立中央病院でも毎年10名以上の医師国家試験を合格した直後の医師が採用され、常に20名以上の初期研修医が勤務しております。初期研修医はその2年間の研修で様々な診療行為を研修していきませんが、その中でも大事なものの一つが採血や静脈路確保などの手技です。これらの手技は患者様に侵襲を与えるものであり、患者様に行う前に他の医療者に被験者になってもらったりして、練習を行います。それには限度があります。

そこで茨城県立中央病院では、手技を学べる様々なシミュレーター（模擬人形）を数多くそろえたスキルトレーニング室を整備しております。茨城県立中央病院のスキルトレーニング室は2012年に開設され、2018年に現在の研修棟に移転したことにより、県内屈指の規模となっております。

スキルトレーニング室には、静脈採血・動脈採血・腰椎穿刺・胸腔穿刺・気管挿管などの手技を行うためのシミュレーターだけでなく、胸骨圧迫や人工呼吸などの蘇生技術

を評価してくれるシミュレーター、患者様の状態やバイタルサインを表現し急変時における対応を学ぶことのできるシミュレーター、分娩の手技を学べるシミュレーター、ダヴィンチ手術を含めた内視鏡の手技を学べるシミュレーターなど、様々なシミュレーターが新生児用から成人用まで複数そろっており、様々な手技の練習や講習会を開催することができます。

そのため、スキルトレーニング室は毎年4月に新規採用された医師や看護師の手技などの練習が行えるだけでなく、初期研修医を終えた専攻医も内視鏡技術などのさらなる技術の習得ができ、また空いた時間にいつでも練習できるように24時間365日使用することができます。

さらには県内医療者に向けてもスキルトレーニング室は解放されており、県内の医療者向けの講習会を開催するだけではなく、最近では救急隊員向けの講習会も数多く開催しております。2024年度はそのような講習会やスキルトレーニングに関する会議を162回開催しており、県内トップクラスの開催数となっております。

またスキルトレーニング室には様々な種類のシミュレーターを数多く保有しておりますので、県内の医療施設や蘇生の講習会を希望している学校などにその器材の貸し出しを無料でしております。2024年度は県内の医療施設を中心に県内の学校や県外の医療施設などに計44回シミュレーターの貸し出しを行うとともに、必要とあれば茨城県立中央病院のスタッフを講師として派遣させていただいております。

このように茨城県立中央病院では日常の診療を行うだけでなく、スキルトレーニング室を整備することにより初期研修医を含めた県内の医療者の教育や一般市民の方の蘇生講習会にも力を入れております。



筑波大学
University of Tsukuba

筑波大学附属病院 茨城県地域臨床教育センター

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121

ホームページ <https://www.hosp.tsukuba.ac.jp/chiiki/cyubyo/>



茨城県